

国際交流員のコラム

●太平洋上に光り輝く深い緑の宝石:奄美大島(後編)●(本記事は、第 175 号の続きです。)
— 鹿児島県国際交流員 スノーデン・ジョセフ(イギリス出身)

(5)フクギ並木・宮古崎

2日目は期待を抱き、朝早く起きました。まずはフクギ並木を視察するために、国直海岸へと向かいました。

国直に到着してすぐに気づいたことは絶景の海辺でした。私は短い散歩だけでも十分楽しみましたが、国直の住民は海辺を広場として扱い、そこで話を共有しながら、一緒に飲んだり、ゲームをしたりするようです。ウミガメの産卵地としても有名なので、海洋生物に興味のある方にもおすすめです。



国直の海辺



琉球文化の名残やインスタ映えのスポットもたくさんありました！

フクギ並木は海岸に直面しています。フクギは密集しても問題なく成長するため、並べて植えると生きている壁になります！元々は防風、防火林として植えられましたが、今は写真撮影やウェディングフォトに人気の観光スポットです。クリスマスの時期にはフクギの垣根をクリスマスライトで飾り、「フクギナイト」というイベントが開かれます。



フクギ並木

フクギ並木を少しぶらぶらした後、北へ向かって遊歩道を通り、宮古崎にたどり着きました。1年中風がとても強く、木が育たないため、代わりに大人の腰の高さまでしか育たないリュウキュウササが一面を覆っています。このため、視界を遮るものがなく、水平線まで見通すことができます！とても不思議で独特な場所でした。



リュウキュウササで覆われている宮古崎

(6) 奄美大島世界遺産センター



世界遺産認定書

次の目的地は 2022 年7月に開館した奄美大島世界遺産センターでした。多くの人々に奄美大島の世界自然遺産の価値を理解してもらうために造られた総合拠点で、興味を惹かれる展示室とミュージアムショップが整っています。



奄美大島世界遺産センター



ミロコマチコさんの壁画

施設に入るとまず奄美大島在住の絵本作家、ミロコマチコさんが描いた迫力のある壁画が待っています。奄美大島の生態系をテーマにした魅力的なイラストで、子供も大人も楽しめます。

展示室内は奄美大島の森を再現しており、15分ごとに照明の色や壁に映っている映像内容が変わり、昼の森と夜の森を両方鑑賞することができます。奄美大島の動植物の特徴について学びながら、進化の過程は本当に素晴らしいと何回も思っていました。



展示室の様子

壁に書いてある説明は日本語と英語で書いてありますし、多言語でのガイド・説明書も配布されており、世界中の人々が楽しめる場所です！

(7)黒潮の森 マングローブパーク(カヌー体験)

奄美大島世界遺産センターのすぐ隣に、日本で2番目に広いマングローブ原生林があります。マングローブパークという施設ではグラウンドゴルフ、セグウェイ体験など、マングローブをいろんな形で楽しめますが、今回、私は奄美大島の定番観光活動、カヌー体験をさせていただきました！

まずカヌー乗り場に歩いて行き、ライフジャケットやパドルを渡されてから、ガイドさんに基本的な漕ぎ方などを説明していただきました。説明はゼロから始まるため、私と同様の初心者の人でも安心して参加できます。そのあと、カヌーに乗り、マングローブのトンネルへと出発しました！



カヌー体験

潮の流れで漕ぐ必要はほとんどなく、写真を撮たくさん撮りながら、ゆっくりと眺めを楽しみました。マングローブのトンネルの到着後に、ガイドさんからマングローブの種類やマングローブパークで見られる野生動物について説明がありました。



マングローブの説明中

マングローブのトンネルはとても不思議で、私が今まで経験したどことも全く異なる、世界の中でもとてもユニークな場所に来たと改めて感じました。マングローブのトンネルの雰囲気に入り、長くそこにいたかったです！帰りは潮の流れに逆行し、頑張って漕ぎ続けたあと、私はすっきりとした気分になりました。

(8)三太郎崎(アマミノクロウサギ観察)

2日目の夜は島の中心部に行き、アマミノクロウサギという絶滅危惧種を観察するため、三太郎崎を通りました。アマミノクロウサギは道路の真ん中にも出てきますので、事故を防ぐ対策として自動車の台数が制限されており、事前予約が必要ですが、奄美ならではの体験なので本当におすすめです！

ガイドさんのおかげでアマミノクロウサギを6匹ぐらい見ることができ、私は感動しました。なお、その他にも、様々な野生動物の鳴き声も聞こえました。極めて独特な生態系は奄美大島が世界自然遺産に登録された理由の一つで、このように奄美の生物多様性を直接観察することは非常に貴重な経験だと思いました。



三太郎崎で見かけたアマミノクロウサギ

(9)富田酒造場

3日目朝、まだアマミノクロウサギ観察の楽しみの余韻に浸っておりましたが、奄美を代表する黒糖焼酎を造る富田酒造場を訪れました。この酒造場では「龍宮」や「まーらん舟」など、人気の黒糖焼酎を製造するだけでなく、見学ツアーも提供しています。奄美の黒糖焼酎の蔵元の中では比較的小規模な酒造場で、私は最初から親しみを感じました。しかも、富田さんの説明によりますと、その地域はイギリスとの歴史的な繋がりがあり、私はイギリス人として更に親近感を持ちました。



富田酒造場の正面



富田酒造場の黒糖焼酎



イギリスとの繋がり

富田さんの見学ツアーは興味深く、私が以前訪れた芋焼酎の蔵元と比べ、様々な相違点があり、比較すると面白かったです。例えば、焼酎の製法には「仕込み」という工程があり、これは原料が発酵している「もろみ」を造ることが目的です。この工程では原料を甕(かめ)という床に埋められたタンクに入れますが、奄美大島の気候が本土に比べてより暖かいため、ここでは甕の下の部分だけが埋められています。



もろみの入っている甕

個人的に言いますと、今回の見学ツアーのハイライトは黒糖の味見でした。沖縄産と奄美産黒糖を両方食べることができ、味には以外と差がありました。富田さんがその違いの原因を説明してくださいました。

「ウィンド・テスト(Wind Taste)」,つまり、黒糖の原料であるサトウキビが育ちながら潮風を受け、味が付きます。ただ、産地によってサトウキビは潮風にさらされる程度などが異なりますので、結局黒糖の味(ウィンド・テスト)も異なります。富田酒造場では、「龍宮」は沖縄黒糖で造られている一方、「まーらん舟」は奄美黒糖で造られているため、両方を試飲することをおすすめします。



富田酒造場で使う沖縄産黒糖

最後に、黒糖焼酎のおすすめの飲み方はあるのかと富田さんに質問してみましたが、その返答には驚きました。

「いえ、ただ黒糖焼酎を楽しんでいただきたいので好きなように飲んでください。」

イギリスでは、私はワインをよく飲みましたが、ワインの飲み方についてのルールがたくさんあり、ワインのペアリングなどが重要です。一方で、富田さんは黒糖焼酎を自由に飲み、ストレート、水割り、ソーダ割など自分に合っているスタイルを見つけることをお勧めしてくださいました。その観点は私にとって、黒糖焼酎そのものと同じくさっぱりしているように感じました。

私は富田さんにお礼し、「まーらん舟」を一本買ったあと、最後の目的地へと向かいました。



「まーらん舟」を手に持ち、富田酒造場を後にしました

(10)大島紬村

奄美には昔から伝わった特産物があります。世界三大織物とされる大島紬は光沢を持つ絹織物で、奄美大島に行く機会があれば絶対に見逃せません！

紬でよく使う龍郷柄というモチーフで覆われた看板など、奄美大島の様々なところで大島紬の存在を感じることができますが、もっと知りたい方は大島紬村をお勧めします。

私が大島紬村に到着すると、亜熱帯植物庭園の素敵な花に出迎われました。奄美を代表するルリカケスの鳴き声を聞き、奄美の冬の始まりの象徴であるリュウキュウアサギマダラを観察しながら、泥染め体験や見学ツアーを待ちました。



大島紬村の亜熱帯植物庭園

ワクワクしながら泥染め体験エリアへ向かいました。泥染めの先生の説明を興味深く聞いてから、私はハンカチを手に持ち、深い茶色の背景に白い花柄というモチーフで染めるために折り始めました。ハンカチを折ったあと、シャリンバイという植物でできた染料を使い、3回染めました。ハンカチは短時間だけ染料に浸っていましたが、意外と濃い赤ワインの色になりました。

そして、泥田へ向かい、柔らかい泥の中にハンカチを埋めました。泥の中の鉄分がシャリンバイの染料に含まれているタンニンと反応し、ハンカチに光沢のある独特なチョコレート色を付けます。ハンカチの出来上がりは個人的に大満足で、奄美の伝統技法によって作ったからこそ得られた、大変貴重な経験でした。



泥染め体験エリア



ハンカチの折り方に集中しています



シャリンバイ染め



泥染め中



出来上がり

染めたハンカチが乾燥している間, 私は紬の製造工場へ入り, 紬の緻密な模様を作成するのに
どれほど高いスキルや繊細な作業が必要か把握することができました。紬の着物などを手で触る
こともでき, 特に織物の軽さに驚きました。



大島紬村の見学ツアーの様子

まとめ

短い滞在だけでも, 私は奄美大島を満喫しました。ルリカケス, アマミノクロウサギ, ヒカゲヘゴ
などの動植物, そして奄美の島唄, 黒糖焼酎, 紬などの伝統, 奄美ならではの自然や文化が山ほ
どありますので, 是非奄美大島へ行き, 体験してみてください。私と同じく, 奄美の大ファンにな
ることを確信しています！